

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

選択、記述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年同様、論述問題は出題されなかった。

その他トピックス

ズバリ！的中 大問[III]の問2と直前講習広大化学テスト第1講の[III]

アレニウスプロットの類題は2020年度に出題されている。

プロピンの3分子重合は2012年度に出題されている。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	選択 記述	酸化還元 窒素化合物 化学量論	化学基礎 化学	酸化数、酸化還元 ハーバー・ボッシュ法、オストワルト法 炭素とオゾンの反応の量的関係	標準
[II]	選択 記述	反応速度 電離平衡	化学	反応速度、平衡定数 アレニウスプロット、活性化エネルギーの算出 文字式を用いた電離平衡、緩衝液、塩の加水分解	やや難
[III]	記述	油脂 芳香族化合物	化学	油脂の構造決定、脂肪酸の酸化開裂 C_8H_{10} の構造決定、プロピンの3分子重合	標準
[IV]	選択 記述	合成高分子化合物	化学	付加重合、開環重合、縮合重合 平均分子量の測定(浸透圧、凝固点降下)	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本～標準的な問題が多いが、細かい知識や考察力を要する問題も出題される。論述・描図問題、文字式を含む煩雑な計算問題も出題されることがある。対策としては、教科書の基本事項を確認し、問題演習を通じて知識の定着を図ることが必要である。また、難しい問題が出題されることもあるので応用力をつけておきたい。論述問題の対策として、日頃から簡潔、明瞭に文章を書く練習をしておくことが大切である。